

6 安全・安心のかけ橋になろう。

自分が住んでいる地域が安全で、日々、安心して生活したい、と誰もが思っています。

しかし、地域の安全・安心は行政だけでつくれるものではありません。地域の住民が無理をせず、できることから安全・安心の輪を広げていくことがとても大切です。まず初めに、子どもたちの登下校時の見守り活動などから始めて、地域全体で「ただいま」、「おかえり」、「ってきます」を言い合える関係をつくっていったらどうでしょうか。

地域の大人から声をかけられることは、子どもたちにとってもありがたいことです。物怖じしないでどんな世代の人ともつきあえる子どもたちが育まれていきます。

また、登下校時に地域の「見守り活動」を実施すれば、子どもの安全を守る活動や地域の防犯活動にもなっていきます。地域の安全・安心はちょっとしたことからつくられていくと思います。

【事例：小学生の下校時見守り活動】

臼井小学校の通学路となっている臼井台区と大名宿では、毎日、住民が自主的に児童の見守り活動を行っています。

この活動は、学校の安全が損なわれる事件が多発したことを受けて、地域の住民が、子どもたちの安全確保に向けて取り組みを始めたとのことです。

この活動を通して、メンバー同士だけでなく、臼井西中学校生徒との挨拶や地域住民にも活動が連鎖したことで、道で会った人と自然とあいさつが交わされ、会話も生まれてきました。

そして、人とのつながりが出来てきたことで、最初は義務感で参加していた人も、徐々に活動の楽しさ、やりがいを感じ、今では毎日かさずに参加している人もいるとのことです。この活動や「防犯パトロール」を通じて、地域の安全・安心を自分たちで確保しようという気運が高まっているとのことです。



<下校時見守りの様子（臼井小学校通学路）>